

講師：重村 宏（日本歯科技工士会会員）

## 第 1 部 新たな考えの義歯は歯科補綴の未来を開拓できるか

激動する現代にあって、多くの人々の価値観もそれにつれて変化しているようである。それは歯科を取り巻く環境においても徐々に患者さんたちの意識の変化が起こってきているようである。その傾向として、歯を削ってのクラウン・ブリッジや骨を削らなければできないインプラント治療などの、体の一部を削除しなければならないことへの強い抵抗感を持つ患者さんが増えてきている。しかし、不可逆的な治療を嫌ったとしても残された選択肢は、過去から様々な問題を指摘されている部分床義歯しかなく、歯科補綴の選択の限界を痛感するのである。この壁を破るものとして新たな義歯のシステムを構築した。このシステムが、患者さん側に立ったものであるかを理論と実際とともに提示したい。

現在の歯科補綴は、AI、CAD/CAM 化によって形骸化の一途をたどっている。歯科技工士の雇用も失われていく恐れが叫ばれている。この時代に、皆様と持続可能な歯科補綴について考えてみたいと思う。

## 第 2 部 結果の出る咬合治療のための新しい咬合理論と客観的なシステム

近年の歯科医療は、様々な分野において停滞感や閉塞感の漂う環境の中にあると思われる。その中で咬合治療への重要性が注目されてきている。患者の生きる価値観と密接な「咬合」をコントロールできることは大きな戦略的価値があることは認識されてきた。しかし、「咬合治療ほど解りにくく、不採算なものはない」、「咬合研修を受けても実践に応用できない」と思われてもいる。

これらの問題から、私たちは 10 数年前より画像診断を用いて①咬合治療の可視化、②咬合治療の定量化、③咬合治療の標準化を図ってきた。顎関節の CT による撮影しか個別性の高い顎関節の解剖学的形態や位置関係を理解することはできない。また、術者が顎関節周辺の解剖学と生理学に精通していなければ正しい評価ができないのは当然のことである。この解剖学を咬合に取り入れることによって今までとは異なる咬合へのアプローチが生まれます。これらの JPI 方式を、3D をまじえて誰にでも理解しやすい容易な形でお伝えしたいと思う。